

SuperMap iDesktopX 10i(2021)SP1 リリースノート

DX 時代の新デスクトップ GIS『SuperMap iDesktopX 10i (2021) SP1』をリリースしました。2021 年 11 月に SuperMap iDesktopX 10i(2021)リリース後、今回、SP1 をリリースすることになりました。SuperMap iDesktopX 10i の製品をお持ちのユーザー様は無償でバージョンアップでき、同等エディション・拡張モジュールのライセンスをそのままご利用可能です。

SuperMap iDesktopX 10i(2021)SP1 は Windows 64 ビット版及び GeoAI 拡張を提供します。その他の拡張モジュールの追加については、弊社の各営業部門・営業担当者に気軽にお問合せください。

SuperMap iDesktopX 10i(2021) SP1 は、従来のリリースに、以下の機能追加や性能向上が含まれています。GeoAI 拡張パッケージも更新しました。

オンラインサービス

- ワークスペースには既存のワークスペース（ファイルタイプ、データベースタイプ）に加えてオンラインワークスペースを追加しました。登録ユーザーに対するオープンサービスとしてオンラインマップ、オンラインデータ、オンラインシンボライブラリ、オンラインカラスキーマ、オンラインテンプレート、個人センターなどが利用可能です。オンラインサービスは日本スーパーマップが運営する「時空間日本」が利用できます。
- オンラインサービス「時空間日本」では、逐次オープンデータサービスを追加して、データ、マップ、3D シーン、ダッシュボード、データインサイトを提供し、登録ユーザーにはユーザーデータ、マップ、3D シーンの共有を可能しました。当面は SuperMap 製品ユーザーには約 2GB の無料ストレージを提供し、製品以外の登録ユーザーには参加するグループデータや共有されたデータのビュー機能のみを提供します。なお、一般公開しているものについては、登録しなくても閲覧可能です。

データ管理

- SQL Plus データベース型データソースを開く機能を改良しました。データベースドライバータイプの設定もサポートしました。
- [ヒストグラム]表示スタイルを改良し、見栄えをよくしました。
- モザイクデータセットの[オーバービューの構成]機能を改良し、マルチスレッド対応によりオーバービューの構成効率を向上させました。
- [属性テーブル検査]機能を追加しました。SQL 表現式でエラールールを作成し、エラー条件フィルタを開くと、直感的に属性エラーを発見できます。
- [統計フィールド]機能を改良し、フィールドの個別値個数の集計機能をサポートしました。

ストリーミングデータ管理

- リアルタイムストリーミングデータの配信機能を改良しました。ストリーミングサービスの稼働状況を検知し、ワンクリ

ックでサービスの開始/終了をサポートしました。

- [ストリーミングサービス管理]機能を追加して、複数サービスの開始/終了の状況管理をサポートしました。

データ編集と処理

- [複数の平行ライン]機能を追加し、平行ラインの数、幅などを設定することによって同時に複数の平行線を描画することが可能になりました。
- [重複ノードの消去]機能を追加し、重複ノードを消去し、ポリゴンの形状を変更することなくデータの軽量化とレンダリング効率の向上を実現します。



マップ作成

- [データ収集]機能を追加しました。データとシンボルテンプレートを指定し、データの空間と属性情報を収集し、マップのクイック作成が可能となりました。
- テンプレートの作成と管理をサポートし、業務ニーズに見合ったテンプレートのカスタマイズができます。
- 画像接合表機能を改良しました。1:2000、1:1000、1:500 スケールの接合表の生成をサポートしました。
- [やり直す]/[元に戻す]機能を改良しました。レイヤーの編集とレイヤーの右クリックメニューでの操作に対して、[やり直す/元に戻す]機能が使用可能となりました。
- 複合データセット(CAD)のオブジェクトはスタイルテンプレートのロード、出力をサポートし、テンプレートライブラリに保存することが可能となりました。
- レイアウトのオブジェクトはスタイルテンプレートのロード、出力をサポートし、テンプレートライブラリに保存することが可能となりました。
- ポイントシンボルエディターを改良しました。
 - ・ ラスタポイントシンボルの編集をサポートしました。シンボルの番号、名前、原点、透過などを設定することが可能になりました。
 - ・ ポイントシンボルのインポート機能を改良しました。TrueType フォント、AutoCAD ファイルのインポートが可能になりました。
 - ・ ポイントシンボルのエクスポート機能を改良しました。SVG ファイルにエクスポートすることが可能になりました。

マップタイル

- [タイル検査]機能を改良しました。
 - ・ MongoDB のラスタタイルと ローカルの GIFF、JPG、PNG8 形式のラスタタイルの検査をサポートしました。
 - ・ 検査結果の表示方式を改良しました。タイルエラータイプのラベル主題図を作成し、タイルのエラータイプを明示することが可能となりました。
 - ・ 検査結果の保存パスを指定することができました。
 - ・ 検査結果を CSV 形式ファイルに出力することが可能になりました。ファイルにはエラーの数、タイプ、エラータイルの行列番号を記録しています。
 - ・ 検査結果の保存方式を改良しました。結果のデータソースとマップをワークスペースに保存することが可能になりました。
- [境界検査]機能を改良しました。
 - ・ レベル 18 以上のタイル境界検査の効率を向上させました。
 - ・ タイル検査のタイル表示方式を改良し、[↑]、[↓]キーでタイルを切り替え、タイルの検査と注記の利便性を向上させました。
 - ・ ショートカットキーでタイルエラータイプを注記することが可能になりました。ショートカットキーのユーザー定義もサポートしました。
- [タイル管理]機能を改良しました。
 - ・ MongoDB のタイルをローカルコンパクトタイルとして出力することが可能になりました。
 - ・ ローカル、または MongoDB のタイルを MongoDB タイルとして出力することが可能になりました。

レイアウト

- テキストレイヤーのレイアウトを改良し、テキストがボックス幅を超えた場合は自動改行します。

ネットワークと交通解析

- [流向の作成]機能を改良し、バリアノードとバリアエッジの設定をサポートしました。
- [バス乗換]機能を追加し、バスネットワークデータを用いて指定した始点と終点でバス乗換経路を提示します。
- [路線検索]機能を追加し、指定バス停を経由する経路検索をサポートしました。

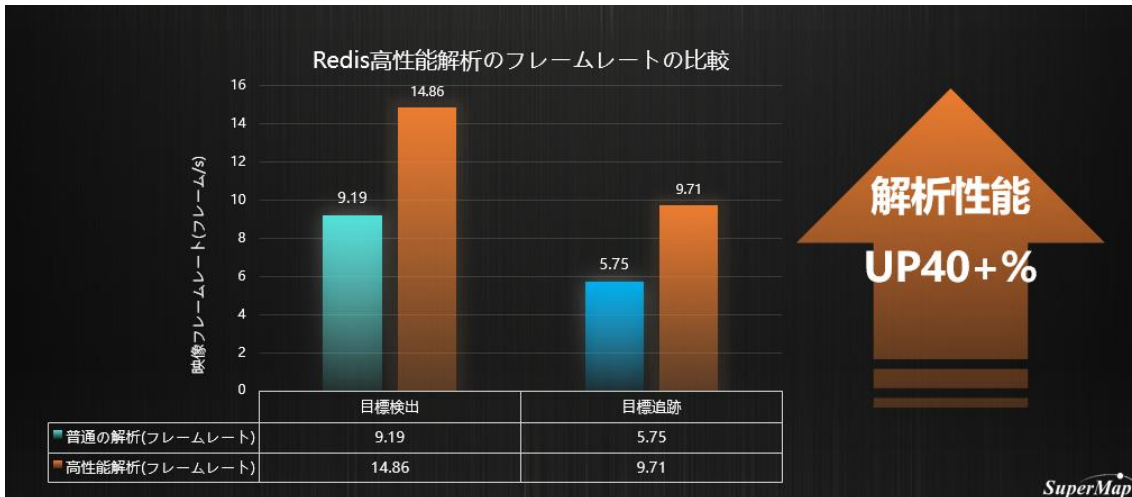
映像マップ

- マップウィンドウで映像レイヤーのレイヤー属性が設定できます。
- シーンウィンドウで映像レイヤーのレイヤー属性が設定できます。

映像解析

- [検出設定]機能を改良し、検出結果のラベルスタイル、検出ボックスのライン幅の設定をサポートしました。
- [ターゲット統計]機能を改良し、ダイアグラムによりリアルタイムで統計結果が表示することが可能になりました。
- [テキストスタイル設定]機能を追加し、ジオフェンス解析と速度計測結果のテキストスタイルを設定することが可能になりました。

- 検出モデルを改良して、モデルの切り替えとユーザー定義モデルの追加をサポートしました。
- マルチチャンネル映像検出をサポートし、同時に複数映像の映像解析が実行できます。
- 分散型映像検出をサポートし、複数 PC で別々の映像を解析し、検出結果を指定 PC に返して表示し、映像検出のパフォーマンスを向上させました。
- Redis を使用して映像解析のパフォーマンスを 40%~80%向上させました。



処理自動化


- モデリングと実行
 - ・ ログ情報にパラメータ値を書き込むときにセンシティブ情報を暗号化する機能を追加しました。
 - ・ モデル実行ログの情報表示を改良し、冗長な情報を非表示にしました。
- モデル管理
 - ・ モデルのエクスポート機能を改良し、モデルファイルとして保存されると、データソースの接続情報を暗号化します。
- ツール
 - ・ バッファ解析ツールを改良し、数値型バッファ解析とフィールド型バッファ解析では端点タイプのパラメータ設定を追加しました。
 - ・ ツールの入力部分を改良し、一部のツールはデータセットタイプの制限を追加しました。
 - ・ [再区分範囲の構成]ツールを追加し、[再区分]ツールの実行中にデータセットの再区分範囲を取得する機能を追加しました。
- 分散型ツール
 - ・ モザイクデータセットの読取ツールを追加し、モザイクデータセットをラスタデータセット(RasterRDD)として直接読取ることをサポートしました。
 - ・ DSF 関連のツールをダブルクリックしてツールを開くと、画面が動かなくなる問題を解決しました。
 - ・ 再区分とリサンプリングツールの文脈推論機能を追加しました。

データ移行

- データ移行
 - ・ マルチポイント要素をポイントデータセットとして移行することをサポートしました。

- ・ [SDE のインポート]機能を改良し、特定のデータを選択して移行することをサポートしました。
 - ・ 注記をテキストレイヤーに移行することをサポートし、注記スタイル、座標系、スケールなどのパラメータも共に移行します。
- マップ移行
 - ・ MXD に関連づけた SDE データベースに接続失敗した場合、マップとレイアウトのみの移行が可能です。
 - ・ MXD のソースデータをデスクトップ製品でサポートされている任意のデータベースタイプのデータソースに移行できます。
 - ・ データ解析や表示の正確さを保持するため、MXD の文字セットの設定をサポートしました。
 - ・ シンボルの移行を改良し、ラインシンボルの点線・実線、文字記号セットの角度オフセット、フィルシンボルの任意角度によるラインフィルをサポートしました。
 - レイアウト移行
 - ・ レイアウトの移行機能を改良し、レイアウトのポイント/ライン/ポリゴンの移行をサポートしました。

インタラクティブな体験

- スタート画面を追加し、サンプルデータ、ユーザーデータ、リソースリンクを迅速に開くことができました。
- カラースキームマネージャを改良し、類似色、補色などのモデルに従ってカラー設定や配色することができ、配色効率を向上させました。
- ツールのダイアログボックス説明方法を改良し、マウスをダイアログボックスの  に移動すると、パラメータの説明が表示されます。クリックすると、オンラインヘルプが存在する場合は、機能の説明ページに飛びます。

その他

- 地理院地図などの Web データソース接続先を https://***に変更しました。